

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成16年12月2日(2004.12.2)

【公表番号】特表2001-508643(P2001-508643A)

【公表日】平成13年7月3日(2001.7.3)

【出願番号】特願平9-533941

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 K 14/475

C 0 7 K 14/71

C 0 7 K 19/00

C 1 2 Q 1/68

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 0 7 K 14/475

C 0 7 K 14/71

C 0 7 K 19/00

C 1 2 Q 1/68 A

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成16年3月15日(2004.3.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年3月15日



特許庁長官殿

1. 事件の表示 平成9年特許願第533941号

2. 補正をする者

住 所 ドイツ国 ミュンヘン ガルディニストラッセ 47

名 称 ラドゥレシュ ラズバン ティー.

3. 代理人

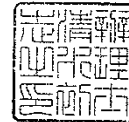
住 所 〒300-0847 茨城県土浦市御町1-1-1

関鉄つくばビル6階

電話 029-841-2001

氏 名 ~~(10-297)~~ 弁理士 清水 初志

A297



4. 補正対象書類名 明細書

5. 補正対象項目名 発明の詳細な説明と請求の範囲

6. 補正の内容

(1) 明細書第1頁19行～第1頁23行

方 式 査 査



「この目的は、請求項1記載のペプチド、請求項9記載の核酸(DNA/RNA)、請求項12記載のペプチド核酸、請求項13記載の薬学的組成物によって、ならびに請求項15記載の該ペプチドの使用、請求項17記載のDNA/RNAの使用、請求項18記載のペプチド核酸の使用、および請求項21記載の薬学的組成物の使用により達成される。」を、「この目的は、請求項1記載のペプチド、請求項13記載の

核酸 (DNA/RNA)、請求項 1 6 記載のペプチド核酸、請求項 1 7 記載の薬学的組成物によって、ならびに請求項 2 0 記載の該ペプチドの使用、請求項 2 2 記載の DNA/RNA の使用、請求項 2 3 記載のペプチド核酸の使用、および請求項 2 1 記載の薬学的組成物の使用により達成される。」と訂正する。

(2) 請求の範囲全文

請求の範囲

1. 腫瘍抑制タンパク質の断片、または増殖因子セグメントもしくは増殖因子レセプターセグメントに結合する性質を有し、水との親和性においてそれと相同なペプチド配列を含む構成要素(A)、
構成要素(A)を安定化させ、プロテアーゼによるタンパク質分解から構成要素(A)を保護する性質を有する補助因子である構成要素(B)
を包含する、抗増殖性ペプチドABまたはBA。
2. 構成要素(A)が、水との親和性において、増殖因子セグメントまたは増殖因子レセプターセグメントに相補的である、請求項 1 記載のペプチド。
3. 構成要素(A)が、網膜芽腫タンパク質(RB1)に由来する腫瘍抑制タンパク質断片である、請求項 1 または 2 記載のペプチド。
4. 構成要素(A)が、アミノ酸配列FYKK、または水との親和性において少なくとも二つの部位でそれに相同なアミノ酸配列を含む、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項記載のペプチド。
5. 構成要素(A)が、アミノ酸配列LFYKKV、または水との親和性において少なくとも二つの部位でそれに相同なアミノ酸配列を含む、請求項 4 記載のペプチド。
6. 構成要素(B)が、分枝ペプチド、ポリリジンコア、D型アミノ酸、および核局在配列(NLS)からなる群より選択される、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項記載のペプチド。

7. 構成要素(B)が、 $[GGG]_4[KRG]_2KG$ 、 $[GGG]_4[K]_2KG$ 、および $[GGG]_4[KdRG]_21KG$ からなる群より選択されるポリリジンコアである、請求項6記載のペプチド。

8. 構成要素(B)が、PKKKRKV、RQIKIWFQNRRMKWKK、NLS断片、およびRNP A1 NLSからなる群より選択されるNLSである、請求項6記載のペプチド。

9. 増殖因子セグメントまたは増殖因子レセプターセグメントが、下記の水との親和性プロファイルを有するアミノ酸配列を含む、請求項1～8のいずれか一項記載のペプチド：

疎水性アミノ酸-X-疎水性アミノ酸-X-親水性アミノ酸（式中、Xは任意のアミノ酸を表す）。

10. 増殖因子セグメントまたは増殖因子レセプターセグメントが、アミノ酸配列LXCXEまたはFVCGDを含む（Xは任意のアミノ酸を表す）、請求項9記載のペプチド。

11. アミノ酸配列LXCXEが、インシュリンに由来するものである、請求項10記載のペプチド。

12. ペプチドが、下記の(a)～(k)からなる群より選択されるペプチドである、請求項1～11のいずれか一項記載のペプチド：

13. 遺伝暗号に基づき請求項1～12のいずれか一項記載のペプチドをコードする核酸。

14. 下記の配列を含む核酸を包含するものである、請求項13記載の核酸：

a) 5' UUC UAC AAG AAG 3' (N0)

または核酸(N0)と同一のペプチドをコードする核酸(Nx)であって、

b) N0と一つもしくは複数のヌクレオチドが異なるNx、

c) N0とハイブリダイズするNx、または

d) 遺伝暗号の縮退に従いN0と関連するNx。

15. 下記の配列を含む核酸を包含するものである、請求項13記載の

核 酸：

a) 5' CUU UUC UAC AAG AAG GUU 3' (N1)

または核酸 (N1) と同一のペプチドをコードする核酸 (Ny) であって、

b) N1と一つもしくは複数のヌクレオチドが異なるNy、

c) N1とハイブリダイズするNy、または

d) 遺伝暗号の縮退に従いN1に関連するNy。

16. 請求項13～15のいずれか一項記載の核酸と構造的に相同であるペプチド核酸。

17. 請求項1～12のいずれか一項記載のペプチドを一つまたはそれ以上含む薬学的組成物。

18. 軟膏、溶剤、分散剤、乳剤、エアロゾル、泡沫剤、粒子、丸剤、錠剤、タブレット、糖衣錠、またはカプセルの形態である、請求項17記載の薬学的組成物。

19. 粒子が、顆粒、凝塊剤、粉末、マイクロパール、および吸着剤からなる群より選択される、請求項17記載の薬学的組成物。

20. 細胞の増殖の増加または過剰増殖に関連する疾患の治療を目的とする、請求項1～12のいずれか一項記載のペプチドの使用。

21. 細胞の増殖の増加または過剰増殖に関連する疾患の診断および／または治療を目的とする、請求項17記載の薬学的組成物の使用。

22. 細胞の増殖の増加または過剰増殖に関連する疾患の診断および／または治療を目的とする、請求項13～15のいずれか一項記載の核酸の使用。

23. 細胞の増殖の増加または過剰増殖に関連する疾患の診断および／または治療を目的とする、請求項16記載のペプチド核酸の使用。

24. 疾患が、良性腫瘍、悪性腫瘍、またはアテローム性動脈硬化症である、請求項20～23のいずれか一項記載の使用。

25. ペプチド[LFYKKVGGG]₄[K]₂KGが排除された請求項1～12のいずれか一項記載のペプチドを固体支持体上に固定することを含む、増殖因子お

よび／または増殖因子レセプターの単離方法。

26. 増殖因子、増殖因子レセプター、および／または腫瘍抑制タンパク質を同定またはクローニングする方法であって、請求項1～12のいずれか一項記載のペプチド配列、請求項13～15のいずれか一項記載の核酸配列、および／または請求項16記載のペプチド核酸配列がその処理過程に用いられる、方法。

27. 増殖因子または増殖因子レセプターと腫瘍抑制タンパク質との複合体形成を予測する方法であって、増殖因子、増殖因子レセプター、または腫瘍抑制タンパク質をコードするcDNAが、相補的DNA配列へと翻訳され、該DNA配列が、データベース検索によりそれと同一または相同であるタンパク質、ペプチド、またはタンパク質／ペプチド断片を見出すのに用いられるペプチド配列へと翻訳される、方法。